

第7回しょうけい館運営有識者会議(持ち回り開催)

【全般】

- 「伝わって初めて、伝えたことになる」と思うので、戦中・戦後の労苦を次世代に伝える施設(昭和館・しょうけい館)は、時間はかかるが、将来に向けて、施設側がその
- ・ 労苦を「伝えている」ことが来館者へ感じ取ってもらえるような展示となっているか、つまり「伝わる展示になっているか」かどうかを精査する転換期になっているのではないか。

【来館者等】

- ・ 中学・高校・大学と団体見学が増加したことは、とても良い。広報活動の効果が出てきていると思われる。
- ・ (団体利用者数を)昨年と比べると(増えていること等から)、かなり広報活動の力が広がって(きて)いる気がする。
- ・ 今後、中学校の修学旅行生をターゲットにしたり、高校生を含めた「平和学習利用」等も狙っていくべきではないか。

【企画展、ミニ展示】

- ・ (令和元年7月から9月に開催された)企画展「病院船(戦傷病者を還送した船)」は、とても良いテーマであった。(企画展の内容を)ホームページに上げるなど、もっと(しょうけい館の)アピールができると思う。
- ・ (令和2年1月～3月に開催された、ミニ展示の「関係施設紹介展)南風原が語る沖縄戦」は良かった。昨年(の第6回しょうけい館有識者会議で)南風原の(「何かしょうけい館で絡められないものか」と)話していたことが実現して嬉しい。「南風原」のキーワードでいろいろ検索が出来るようにしてはいかがか。
- ・ 今春の企画展(「病床からフィールドへ ～スポーツに取り組んだ戦傷病者の軌跡～」)を、大変に楽しみにしているので、(コロナウィルス感染防止のため開催が未定となっているが)是非開催して欲しい。

【資料の収集、保存】

- ・ しょうけい館は難しいテーマだが、資料の収集・保存だけでなく、いろいろ努力していることが伝わってくる。
- ・ 「兵士たちの戦後史ー戦後日本社会を支えた人々ー」という書籍が出版されたようなので、しょうけい館でも購入してはどうか。

【広報活動】

- ・ ホームページだけでなく、SNSやTwitterなど、広く発信する方法を検討していただきたい。キーワードがあると、関心ある者は来館のきっかけになることが多い。(昭和館からSNS等のノウハウを教えてもらうのも一手)

- 戦後、GHQより恩給に関する覚書が出されたことにより、国からの補償(恩給)がなくなった多くの戦傷病者が、街頭で白衣(旧陸海軍病院の入院着)姿で施しを求めたことから「白衣募金」と言われましたが、このような人々がいたことを、若い年齢層に知っていただくため、NEWS映画として流してはどうか。

【証言映像】

- 証言映像は(その)当事者が(経験した労苦を話す映像であり、直接その証言を聞くことが)良いに違いないが、それを聴く側(の年齢に)に合わせる、という方法もあるのではないか。次世代の語り部の力がものを言うのではないか。
→様々な年代の語り部が委嘱されており、聴く側の年齢層に相応しいその語り部の講話により、労苦について理解しやすい状況となっている。
- (証言映像の収録については、)話の聞き取り方(寄贈資料の提供等があった場合に、その背景や状況等様々な事を聞き取ること)がとても重要であり、(それらを含めて編集、作成して欲しい。)映像数は少なくとも内容が充実していれば良い。

【語り部活動】

- (語り部講話活動は令和元年10月から始まっているが、)初年度でこれだけの(講話活動)実績をあげられたことは、本当に良かった。
- (次世代の語り部が)直接の体験者(戦傷病者本人)に代わり、(労苦を伝えるという大きな)役目を果たしていることに嬉しく、期待が高まる。
- 語り部は、当時の置かれた状況、真実を話すことが重要であり、架空のことにならないよう、知識を身につける努力が必要。
- どのような人が語り部になったのか、何を伝えようとしているのか。
→当時の事を知りたい、身内に戦傷病者がいる、自分自身の生活の見直し等
- 若い世代には、その聴く側に合わせた話し方も必要であり、今後は語り部の力が生きてくると思っている。
- (2019年11月6日読売)新聞記事の中に記載されている「代弁者になりたい」という(語り部の)思いに感動した。
- (講話内容に)戦時中の労苦についても盛り込むようにして欲しい。

【アンケート】

- (10代～80代と回答者)年代別の感想の記録は、来館者の思いが伝わってとても良い。大変に分かりやすい。

- 来館理由、きっかけをきく(確認する)ことが重要。わざわざこの(戦傷病者の)テーマで来られるきっかけを聞くことで、(しょうけい館の今後の活動を)広げてくことが出来るのではないか。

【1階展示室の更新】

- (1階の)シアター室を拡張すること等で、語り部講話や証言映像等の利用団体が増えたことは大変に良かった(学校2クラス同時に対応可能となった。)

【友の会通信】

- 戦傷病者及びその家族と(しょうけい館が)繋がる唯一の手段となっているので、今後も続けて欲しい。
- (戦傷病者及びそのご家族から)何かしらの連絡等があった場合は、その状況を詳しく聞き取ることが重要。

【令和2年度事業実施団体】

- 引き続き、「(しょうけい館(戦傷病者史料館)運営事業)」の事業実施団体は)株式会社ムラヤマで良いと思う。